

# アクアリウム・ダイアリー

2024年9月～2024年11月

## 催し物

- 9月 2日～10月11日 写真展「飼育係が見た野生の姿2024」  
9月21日～10月31日 ハロウィンアクアリウム2024  
「ファントムテラの仲間」展示  
11月12日～24日 タナイスの新種  
「ランマアブセウデス」展示  
11月26日～ アクアリスマス2024「ヒラギ」展示



ハロウィンアクアリウム



ランマアブセウデス

## 【水族館スクール】もっと知りたい!ダーウィン教室<sup>TM</sup>

- 10月20日 「ウミガメの命をつなぐ」 参加者5組13名  
11月17日 「体力勝負!イルカのトレーナー体験」 参加者5組16名

## 生物の出来事

- 9月11日 スマ50尾搬入(愛媛大南予水産研究センターより) | バンドウイルカ「ウィニー」出産  
10月 2日 アカウミガメ6頭 高知市沖土佐湾にて標識放流 11月11日 シイラ13尾搬入(日向漁協より)

## 来訪者

- 10月31日 三重大学 宮崎多恵子 准教授 11月14日～15日 金沢大学 鈴木信雄 教授 他3名  
11月 9日 葛西臨海水族園 岡清志 飼育展示課管理係長 他4名 11月22日 広島大学 河合賢太郎 助教  
新潟市水族館 斎藤淳 管理課長 他3名

## 講演・その他出来事

### 【講演など】

- 9月 2日～ カメ類繁殖施設 補修工事に伴う観覧休止 11月 9日 なごや生物多様性まつり(参加:日比野真大 他)  
9月 4日～ 5日 ベンギン作業部会 11月20日～21日 JAZA設備会議  
(福岡市動物園、参加:村津陽介) 11月21日 スナメリ研究報告会(参加:神田幸司 他)  
9月10日～11日 中部ブロック獣医師研究会 11月27日～28日 JAZA飼育技術者研修会 中部ブロック  
(参加:小谷由佳子) (伊豆シャボテン公園、参加:大杉素人)

9月11日～12日 JAZA将来構想案検討のための  
プレインストミミング会議(参加:綿原正己)

9月20日～21日 なごや生きもの一斉調査2024  
～甲殻類編～講習会(中嶋清徳)

9月29日、10月5日～6日 なごや生きもの一斉調査2024  
～甲殻類編～調査(中嶋清徳)

10月5日～6日 宮崎大学農学部集中講義「水族館学」(森昌範)

10月16日 JAAトレーニングセミナー オンライン開催  
(参加:阿久根雄一郎 他4名)

10月24日～26日 SEAZA総会(台北動物園、出席:加古智哉)  
11月 9日 大規模避難訓練(イルカPF対応あり)

### 【講師派遣】

11月24日 エコパル名古屋コラボイベント(勝見乃里江)

### 【職場訪問・水族館レクチャー(オンライン含む)】

57件 3,353名

### 【職場体験】

1件 3名

### 【お知らせ】

さかなかなは令和7年度(126号)よりWEB版のみの発行になります。  
併せて、定期購読サービスも終了となります。  
以降は水族館ホームページ上のWEB版をご覧ください。

## 編集後記

本号特集の原稿を読んで、1990年代にテリの南極基地に採集に行った時、昭和基地ならもう少し機材もあって楽だろうと思っていたが採集生物の畜養をしていたことを思い出した。南極でも北に位置するその基地では、汲んだ海水で満タンのポリタンクを両手で1つずつ持って砂利だけで足場の悪い海岸をノロノロと数百メートル先の飼育コンテナまで、毎日何往復も登るのだ。今回、昭和基地でも採集は大変な里労働であり危険と隣り合わせと理解した。やっぱり南極は大変だ!(栗田)

### 表紙写真

#### 【メノカモゲツウオ】

学名: *Cygnodonta minoris*  
南本館では水深300mまでの深場に棲んでいます。  
卵から成体まで観察記録が初めて全体を持帰りました。  
この魚を展示するのは日本で初めてとなります。

ニュースター さかなかな Vol.124 2024年 冬  
発行/公開日:2024年11月15日(金) 名古屋港水族館  
〒455-0033 名古屋港区区港1番3号 TEL.052-654-7080  
URL: <https://magyoaqa.jp>  
※本誌の掲載記事、写真等の無断転写・複製を禁じます。



ウェブサイト  
<https://magyoaqa.jp>  
※お問い合わせは052-654-7080(受付時間内)まで

# さかなかな

2024 冬

Vol.124



## 特集

南極、海水上での魚釣り  
～昭和基地周辺での魚類採集～

- 水族館トビックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- ほねほね探検隊
- ポラントニア(便)
- 私の館内おすそポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー



名古屋港水族館

# 南極、海氷上での魚釣り

## ～昭和基地周辺での魚類採集～

2023年10月から2024年3月にかけて第65次南極地域観測隊に参加して、南極の魚を持ち帰ってきました(さかなかな122号 Aquarium Topics 参照)。今回の「さかなかな」の特集は南極での魚の採集について紹介します。

飼育展示第一課 松田 乾

### 安全に移動する

昭和基地は東オンクル島に位置しています。島の周りは海ですが、海面は凍っています(海氷)。魚を採集する場所までの移動は、雪上車やスノーモービルを使いますが、どこでも走れるわけではなく、決められたルートに沿って移動します。

海氷の厚さが薄かったり、水を含んで柔らかかったりすると、雪上車やスノーモービルが自重で沈む危険があります。そのため、安全な海氷の厚さの場所に、一定距離で旗竿を立ててルートを作ります。直になると、海氷が割けるため、状況に応じてルートを作り直します。

私が訪れた2023年には、11月中は雪上車で移動しましたが、12月に入って海氷が薄くなると、雪上車を使わずに軽量のスノーモービルで移動しました。

目的地周辺では徒歩で移動します。潮の満ち引きによって海氷にひずみが生じ、「タイドクラック」と呼ばれる割れ目があります。これらの割れ目は積雪に隠れて見えにくいことがあるため、「ソンド棒」という先がとがった金属製の棒で海氷をつつき、安全を確認しながら移動します。



ガソリンエンジンで動くドリルで海氷に穴をあける。

大きく広がった穴からウェッデルアザラシが顔を出すことがある。



### 海氷に穴をあける

魚を採集するために海氷に穴をあけます。使用するのは、ガソリンエンジンで動く直径8インチ(約20cm)のドリルです。

魚を捕る際はこのサイズで十分ですが、プラントクン採集や籠トラップを入れる場合は、複数の穴を連結して大きな穴を作成します。

穴は円形のため、連結すると隣同士の穴に凸部が生じてしまいます。隣り合う穴の境目を「アイスチゼル」という巨大な彫刻刀のような道具で削り、滑らかに整形します。

大きな穴から差し込む太陽光を目当てに、ウェッデルアザラシが顔を出すこともありました。

### 南極の魚を釣る

魚の採集は海氷にあけた穴から釣りをします。調査地の水深は25～130mで、主に20cm以下の小型魚が釣れます。穴釣りなので短い釣竿が扱いやすく、150m以下が適しています。

晴れて風の弱い日には、雄大な景色を見渡しながらかなり快適に釣りが楽しめます。こうした天気の日には、アプラーベンギンが高い確率で姿を見え、ふと気配を感じて振り返ると、いつの間にか近くにいることもあります。一方、曇りや風が強い日は体感温度が-10℃以下になることもあり、羽毛服でも厳しい寒さです。また、釣り糸や竿の先がすぐ凍りつくため、こまめに氷を落としながら釣る必要があります。

魚がいきなり釣れ、9割ほどが「ショウワギス」という昭和基地周辺で最も多く釣れる魚で、残りの1割が他の種です。南極の多くの魚は海底に生息しているため、仕掛けを海底まで落とすと釣ります。

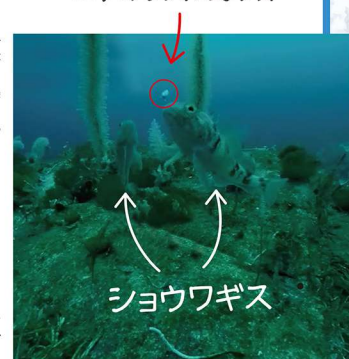
同じ穴で釣り続けていると、徐々に魚が釣れにくくなります。これは、周囲に魚がいなくなったのか、それとも魚が餌に対して警戒心を持ち、寄ってこなくなったのかと思われました。このような場合は、釣り場を変換することで、再び魚が釣れることがあります。しかし、新しい場所での釣るためには、新たに穴を開ける必要があります。南極の多くを釣るためには、手間暇をかけ、慎重に作業を進めなければならないのです。

2023年1月6日、この日もしばらく魚が釣れなくなり、どうしても釣果が伸びない時間帯がありました。そこで、思い切って竿を下に動かし、オモリを使って海底をコンコンと叩くという方法を試みました。これは、魚が音に反応して集まるという釣り方で、餌だけでなく「音」で魚を引き寄せる試みです。しばらく続けていたら、突然、強い手ごたえが竿に伝わり、心の中で「これだ!」と思いました。巻き上げてみると、釣れたのは、見たことがない、口が大きくて細長い魚でした。その魚は、なんと前年の第64次隊による調査で、昭和基地周辺では初めて確認された「メガネカモグチウオ」でした。

この発見は単なる偶然ではなく、長い時間をかけて海底の環境や魚の習性を理解してきた結果でした。メガネカモグチウオは非常に珍しい魚で、その生態についてはまだまだ多くが解明されていない部分も多いため、釣れた瞬間は驚きとともに喜びが込み上げてきました。この発見は、貴重なデータとなり、次の調査のための新たな手がかりを与えることとなりました。

今回の調査では9種、合計600匹以上の魚を釣り、そのほとんどを解剖して食性、年齢、性別、成熟度などを詳しく調べています。一部を水族館での展示や繁殖生態の観察のために活かして持ち帰りました。

エサのついた釣り針



ショウワギス

### メガネカモグチウオ



現在、名古屋港水族館では

### 特別展「銅青係、南極に行く」を開催中!

南極での魚釣りやその風景、調査活動の様子を紹介し、南極から持ち帰った魚も水槽で展示しています。ぜひご覧いただき、南極についての理解を深めていただければ幸いです。



## バンドウイルカの赤ちゃんが誕生しました。

2024年10月2日午前10時28分にバンドウイルカ「ウィニー」(推定22歳)がオスの赤ちゃんを出産しました。今回は、南知多ビーチランドの協力でおスのバンドウイルカの精液の提供を受け、人工授精によって妊娠しました。

赤ちゃんは生まれた時は推定で体長110cm、体重は15kgでした。初めこそ泳ぎや呼吸がごちない感じがありましたが、約7時間後に無事授乳を確認しました。生まれたばかりの頃は体つきも細く弱々しさがありましたが生後1か月半の検診では体長は120cmを越え、体重は誕生時の2倍の約30kgにまで成長し、お腹周りも丸々としてきました。

また、生後間もない頃はお母さんが常に寄り添っていましたが、最近では徐々にお母さんだけでなくお姉さんの「ハッピー」と泳いだり、一人遊びも始めたりしています。さらにはお母さんのトレーニング中にお母さんとプールサイドの間に入り飼育係に撫でてもらうこともあります。

日に日に新しい行動を見せてくれる赤ちゃん。今後の成長が楽しみです。



赤ちゃん(左)とウィニー(右)を温かく見守ってください。

■ 飼育展示第二課 横田 匠希

## SEAZA Conferenceに参加しました

2024年10月23日から26日に台湾の台北市立動物園で開催されたSEAZA Conferenceに参加しました。SEAZAとは東南アジア動物園水族館協会のごとで、SEAZA Conferenceでは研究発表やワークショップなどが行われました。私は日本動物園水族館協会の調査研究委員会アニマルウェルフェア研究部の一員として派遣され、日本の動物園水族館の研究やアニマルウェルフェアに関する取り組みについて発表を行いました。

約30か国から300名以上の参加があり、動物園や水族館で飼育されている動物だけでなく、各国の絶滅の危機に瀕している野生の動物を対象にした発表もありました。発表の内容は飼育方法の改善、教育活動、野生動物の保全活動についてなど多岐にわたり、どれも勉強になるものばかりでした。また海外の動物園水族館で働いている方々とも交流し、それぞれの国の状況や取り組みについてなどの情報交換をすることができました。今後も交流をしながら最新の情報を入手し、水族館の動物たちに還元していきたいと思っています。



■ 飼育展示第二課 加古 智哉

## 水族館 トピックス

2024 冬

## 当館で発見されたタナイスの新種「ランマプセウデス」を展示しました

2009年、北海道大学の角井敬知講師らの研究グループが当館の水槽で、小型の甲殻類であるタナイスの一種を発見しました。発見されたタナイスは大学の研究室で大切に飼育され続け、同時に様々な研究が行われた結果、これまで発見されている他のタナイスには無い特徴を持つ未知の種であることが明らかとなりました。そして2024年にDNA配列を調べた結果を元に、新種(学名: *Apsuodes ranma*) (和名: ランマプセウデス)として学術雑誌で報告されました。学名の“*ranma*”と和名の“ランマ”は、この新種が1個体で雌雄の生殖器官を同時に持つ特徴が、高橋留美子氏のアニメ「らんま1/2」のリードキャラクターで本来は男性ながら女性にもなりうる「早乙女乱馬(らんま)」をイメージさせることから名付けられました(©高橋留美子/小学館)。体長が6mm程度と大変小さい為、どのように展示するか試行錯誤を重ねた結果、シャネル内で飼育しながら顕微鏡で拡大してモニターに映し出す方法にたどり着き、晴れて展示する事ができました。



顕微鏡を使い、上部のモニターに映し出されたランマプセウデス。

■ 飼育展示第一課 坂岡 賢

## 第34回 日本動物園水族館設備会議 を開催しました

11月20日に(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)主催の第34回日本動物園水族館設備会議を名古屋国際会議場白鳥ホールで開催しました。本会議は事故や災害などのトラブルの対処報告や、新技術を導入するにあたり行った実験など、データを共有し、飼育員はじめスタッフの安全衛生環境の改善や飼育生物への動物福祉の向上を目的としています。工事の報告も多いためJAZA賛助企業も参加します。今年は49園館、34企業、約180名の参加があり、能登半島地震の被害報告や水槽を空にしないで行う漏水対策工事、VR技術による生態映像展示などが発表された多くの意見交換が行われました。翌21日には参加者に名古屋潜水水族館の設備や処理工程などを見学していただきました。他と基本的な設備に変わりはないとしても規模の違いゆえの驚嘆と質問をいただきました。共有した知見でスタッフや飼育生物はもちろんのことお客様にも安心快適な環境提供を継続していきたいと思っています。



設備会議1日目の様子。東田館長が歓迎挨拶を行いました。



2日目の設備見学の様子。北館の水温調節設備は特殊なもので興味深い。

■ 施設課 鈴木 浩大

